

令和2年度

---

# 事業報告書



南房総市社協マスコットキャラクター「みなみん」

 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

# 目 次

〇はじめに	3
<b>1 地域福祉の推進</b>	
(1)地域福祉ネットワーク事業	
① 地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み	3
(2)地域生活支援事業	
① 敬老事業	6
② 福祉団体支援	7
③ 福祉施設の運営(公益事業)	7
④ 法律相談事業	8
⑤ 応急援護資金交付事業	9
⑥ ひとり親家庭支援事業	9
(3)広報啓発事業	
① 広報啓発	9
② 社会福祉大会	10
(4)福祉活動支援事業	
① 福祉教育の推進	11
② 子育て活動支援	11
<b>2 高齢者の在宅生活の支援</b>	
(1)在宅福祉支援事業	
① ふれあいの居場所づくり支援事業	12
② ふれあいランチサービス事業	12
③ 紙おむつ給付事業	13
④ 交通空白地有償運送事業(ボランティア移送サービス)	14
⑤ 生活援助サービス事業(みなみん・おたすけサービス)	15
⑥ 福祉車両・福祉機器貸出事業	16
⑦ 日常生活自立支援事業	16
⑧ 生活困窮者自立相談支援事業	17
⑨ 福祉機器リサイクル事業	18
<b>3 在宅生活を支援する資金の貸付</b>	
(1)資金貸付事業	
① 福祉資金貸付事業	18
② 生活福祉資金・老障資金貸付事業	19
<b>4 ボランティア活動の支援</b>	
(1)ボランティア活動支援事業	
① ボランティア連絡協議会の運営	19
② ボランティア・市民センターの整備	20
③ ボランティア養成講座	20

④ ボランティア助成事業	21
<b>5 共同募金運動の推進</b>	
<b>(1) 共同募金事業</b>	
① 赤い羽根共同募金運動	21
② 歳末たすけあい運動	23
③ 災害義援金募集	24
④ 災害見舞金	25
<b>6 社会福祉協議会の活動基盤整備</b>	
① 会員募集の状況	26
② 基金積立額	26
③ 理事会・評議員会の実施状況	27

## 令和2年度 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会事業報告

### 〇はじめに

南房総市社会福祉協議会(以下「本会」)は、地域福祉活動計画(以下「あったかささえあいプラン」)の基本理念である「みんながつながり支え合う みんなに やさしいまちづくり」の実現に向け、地域住民をはじめ関係機関や福祉関係団体の参加と協働のもと事業を進めた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、これまでの「生活習慣」が大きく見直される中で、本会の社会福祉事業の取り組みや活動を中止若しくは延期・縮小せざるを得ない状況であった。特に、不特定多数の方が集まるイベントや行事は全て中止となり、各種会議や集いの場についても感染防止に配慮しながら必要により実施した。高齢化率が45%を超える本市にとっては、高齢者の見守り活動が重要な取り組みの一つであるが、コロナ禍において孤立する世帯も多くみられたため、民生委員・児童委員やボランティアの協力を得て見守り活動を強化した。実施に当たっては国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や安房管内の感染状況などを考慮し、対面による訪問活動又は電話等による安否確認など社会的状況を踏まえた上で実施方法を変更した。また、福祉まつりや社会福祉大会などのイベントの代わりとして、市内幼稚園へ絵本の贈呈や、市内小中学生に感染予防のマスクセットを配布するなど、感染リスクを伴わない事業への転換を図った。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し日常生活の維持が困難となった世帯が増える中、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付が急増したため、全職員輪番制で貸付相談を行うなど個別支援体制の整備にも努めた。

コロナ禍において、改めて地域のつながりを基盤とした「ささえあいたすけあいの地域づくり」がいかに重要であるかを認識したが、これまで推進してきた「ささえあいたすけあい活動」の取り組みが十分に発揮できたか課題も多く見えた年でもあった。「今、できること」と、次年度へ向けて「何ができるか」を考えていく機会ともなった。

令和2年度の主な活動状況を、次のとおり報告する。

## 1 地域福祉の推進

### (1)地域福祉ネットワーク事業

#### ①地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み

市内16の地区社会福祉協議会(以下「地区社協」)が、ささえあいネットワーク南房総(協議体)と連携を図り、ささえあいたすけあいの活動を実施した。また、委員の後継者問題等の課題を解決するため、地区社協統合について地区社協連絡会を中心に、各地区において協議が進められた。令和3年度に新たな地区社協として活動できるよう準備を整えた。

高齢者の生活支援体制整備事業としては市内7地区に配置した「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)は、今年度も生活支援コーディネーターを中心に、地域の福祉課題を協議し、課題を解決するための取り組みが進められた。



★地区社会福祉協議会の活動内容 事業費:1,012,777 円

No	地区社協名	活 動 内 容
1	富浦地区社会福祉協議会	ふれあい交流会、いちご狩り等の交流会は中止。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
2	八束地区社会福祉協議会	友愛訪問、見守り活動を実施。いきいきサロンは中止。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
3	岩井地区社会福祉協議会	地区別いきいきサロン、会食会等は中止。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
4	平群地区社会福祉協議会	地区別いきいきサロンは、1 地区でコロナ感染状況を確認し実施した。その他の交流会等は中止。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
5	滝田地区社会福祉協議会	独居高齢者友愛訪問を行い、地区の見守り活動を行った。その他の交流会等は中止したが、三芳小学校と連携を図り、小学生が作成した「まごころ年賀はがき」を独居高齢者へ郵送し交流を図った。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
6	国府地区社会福祉協議会	独居高齢者友愛訪問を行い、地区の見守り活動を行った。その他の交流会等は中止したが、三芳小学校と連携を図り、小学生が作成した「まごころ年賀はがき」を独居高齢者へ郵送し交流を図った。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
7	稲都地区社会福祉協議会	独居高齢者友愛訪問を行い、地区の見守り活動を行った。その他の交流会等は中止したが、三芳小学校と連携を図り、小学生が作成した「まごころ年賀はがき」を独居高齢者へ郵送し交流を図った。運営委員会、役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
8	白浜地区社会福祉協議会	高齢者のつどいや交流会等は中止。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
9	長尾地区社会福祉協議会	高齢者のつどいや交流会等は中止。 役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
10	千倉地区社会福祉協議会	高齢者ふれあいの日は中止。交流事業代替えとして千倉小 6 年生への卒業祝を贈呈した。 老連千倉支部と合同で「防災講話及び DVD 視聴による研修会」を実施。
11	丸 地区社会福祉協議会	歳末たすけあい、のしもち配布事業の協力や友愛訪問でマスクを配布し見守り活動を行った。その他の交流事業は中止。役員会を開催し、統合についての協議を進めた。

12	南 地区社会福祉協議会	歳末たすけあい、のしもち配布事業の協力をを行い、見守り活動を行った。その他の交流事業は中止。役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
13	和田地区社会福祉協議会	独居高齢者へ新型コロナウイルス感染症対策として手指消毒等の衛生用品を配布し訪問見守り活動を実施した。その他の交流会等は中止。役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
14	北三原地区社会福祉協議会	小規模ふれあいサロンを実施。花いっぱい事業として環境美化活動を実施した。役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
15	上三原地区社会福祉協議会	70 歳以上の高齢者世帯にマスクを配布し、見守り訪問活動を実施。その他の交流会等は中止。役員会を開催し、統合についての協議を進めた。
16	南三原地区社会福祉協議会	高齢者見守り訪問活動を実施。その他の交流会等は中止。役員会を開催し、統合についての協議を進めた。

★ささえあいネットワーク南房総(協議体と生活支援コーディネーター)の取り組み(市受託)

事業費:5,200,000 円

No	協議体名	活 動 内 容
1	こらぼ♡富浦	○富浦地区高齢者を対象とした買い物支援について協議した。 ○新たなメンバーとして区長会や老人クラブの方々へも働きかけ協議を進めた。
2	アットホームとみやま	○サロンサポーターを中心に、買い物支援について協議した。 ○移動支援についてはサロンサポーターが路線バスを使用し買い物支援がどのようにできるか検証した。
3	よりどころみよし	○見守りの拠点を増やすためラジオ体操の普及、サロンを増やす取り組み及びウォーキングパトロールなどを協議した。 ○コロナ禍でサロンが開催できないこともあり、見守り訪問活動を行うとともに、青空サロンを開催し、コロナ禍でもできる取り組みを進めた。
4	やあばっしえ白浜	○今まで協議してきた内容を再度確認するため、地域課題の洗い出しを行った。 ○「移動」「見守り」のテーマで協議を進めた。 ○今後上記テーマでしくみづくりを検討していく。
5	ほっとらいふ千倉	○見守り活動を実施してきたが、コロナ禍において一部見守り活動ができなかった地区も見られ、孤独死の課題があげられた。 ○今後住民同士のつながりを絶やさないう、課題解決に向けて協議を進めていく。

6	おたがいさまネットワークまるやま	<ul style="list-style-type: none"> <li>○救急医療情報カプセルの更新や普及を進めた。</li> <li>○各区長へ「コロナ禍において、困りごとや災害について」のアンケートを実施。</li> <li>○今後アンケート結果をもとに、どのように事業展開できるか仕組みづくりを検討する。</li> </ul>
7	わだいすき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域福祉の担い手である地区社協委員やボランティアなど地区団体の組織再編について協議が進められた。</li> <li>○ダムของ湯水対策やコロナ禍において、民生委員・児童委員だけでなく各団体が連携を図り横のつながりができるよう協議が進められた。</li> </ul>
8	ささえあいネットワーク南房総(本所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「移動や買い物支援」について第1層協議体で協議を進め、福祉施設等と連携を図り支援の輪を広げるための具体的な案を協議した。</li> <li>○今後も引き続き「移動や買い物支援」について、地域包括ケア推進会議とも連携を図り進めていく予定。</li> </ul>

### 【事業評価】

今年度の地区社協活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地域交流をメインとする活動は高齢者等への感染リスクを考慮し、行えなかった状況であった。

そのような中でも、感染リスクを軽減した活動として、友愛訪問活動や学校と連携を図り「まごころ年賀はがき」による高齢者と児童の交流などの取り組みを行った。

令和3年度の役員改選の年に併せ、地区社協統合について地区社協連絡会及び各地区で協議が進められた。会議開催が困難な状況にもかかわらず、地区役員のご協力のもと、令和3年6月までの地区社協組織再編に向け協議を進めることができた。

ささえあいネットワーク南房総(協議体)は、昨年引き続き課題解決に向け、協議を進めた。

しかし、安房管内で新型コロナウイルス感染が拡大したことから、会議や活動の休止も余儀なくされた。今後も生活支援コーディネーターが地域の関係者と協働して進めていくことが必要である。また、コロナ禍だからこそできる「ささえあいたすけあい活動」を進めていくことが課題となった。



## (2) 地域生活支援事業

### ① 敬老事業

結婚 50 周年祝賀事業 事業費: 544,973 円

結婚 50 周年をお迎えのご夫婦に敬意と祝意を表し、記念品を贈呈した。

(対象: 昭和 45 年 9 月 1 日～昭和 46 年 8 月 31 日の間に結婚され市内にお住まいのご夫婦)

開催日	内 容	希望対象ご夫婦
10 月	・記念品贈呈(記念写真・夫婦茶碗)	78 組

## 【事業評価】

結婚 50 周年祝賀事業は、福祉サポートセンター職員が対象世帯を訪問し、記念品をお届けした。対象者には大変喜ばれている事業ではあるが、運営検討会議で協議した結果では、今後縮小もしくは廃止を視野にいれた事業となっていることから、さらに事業の在り方について検討していかなければならない。

## ②福祉団体支援

福祉団体の事務局として市福祉団体(5)、各支部福祉団体(21)の自主運営の促進と団体の事務支援・連絡調整等を行った。

### ★年間実績

福祉団体名	会議	研修会	事業
南房総市民生児童委員協議会	5 回	2 回	1 回
南房総市老人クラブ連合会	6 回	1 回	0 回
南房総市遺族会	2 回	0 回	0 回
南房総市ひとり親福祉会	0 回	0 回	3 回
南房総市中心身障害者(児)福祉会	2 回	0 回	2 回

### ★南房総市戦没者追悼式の開催 事業費:692,519 円

開催月日・場所	内 容	参列者数
11 月 6 日 白浜フローラル ホール	無宗教・献花方式による追悼式典	97 人

## 【事業評価】

各団体の事務局として事務支援及び連絡調整を行いながら、各団体の自主運営が図られるよう支援に努めた。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、研修や事業は中止、また会議については必要な会議のみ感染症対策を徹底し開催した。

また、令和元年度に災害のため延期となっていた南房総市戦没者追悼式を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、遺族参列者及び来賓の人数制限を行い実施した。コロナ禍ではあったが、無事に終了することができた。

## ③福祉施設の運営(公益事業) 事業費:3,078,821 円

ちくら介護予防センターゆらり(浴場等)の指定管理委託を受け、施設利用者へのサービスの充実を図った。

### ★ちくら介護予防センターゆらり…延べ利用件数 (単位:件)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年比較
利用者数	8,078	9,925	2,172	△7,753
施設利用件数	460	416	489	73

## 【事業評価】

ちくら介護予防センターゆらりの浴場と施設は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一



般開放はしなかった。(※一部部屋は開放)

新型コロナウイルス感染症収束後の一般開放に向けて管内のメンテナンスや修繕を実施し、施設管理の整備に努めた。

④法律相談事業 事業費:28,550円

千葉司法書士会館山支部に委託し、法律の無料相談を実施した。

専門性の高い法律の問題を気軽に相談してもらうことにより、地域の方々が安心して暮らせるよう支援した。

★開設実績

内 容 (延べ数)	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年比較
開設日数	12 日	12 日	2 日	△10
相談員数	12 人	12 人	2 人	△10
相談件数	53 件	57 件	11 件	△46

★内容別件数

	内 容	件 数
1	不動産(土地・境界・家屋・墓地・その他所有物)	2
2	相続(遺言・遺産等)	2
3	金銭(借金・貸した金額の請求・家賃滞納・カード関係)	2
4	離婚・再婚	3
5	家族・親族	1
6	法律・規約・規則等各種	1
7	その他	0
	合 計	11

★開催場所

開催月日	開催場所	担当司法書士相談員
4 月 9 日	和田地域福祉センターやすらぎ	中止
5 月 14 日	三芳農村環境改善センター	中止
6 月 11 日	丸山公民館	中止
7 月 9 日	富山ふれあいコミュニティセンター	中止
8 月 13 日	白浜コミュニティセンター	中止
9 月 10 日	とみうら元気倶楽部	中止
10 月 8 日	ちくら介護予防センターゆらり	中止
11 月 12 日	丸山公民館	小林裕明
12 月 10 日	三芳農村環境改善センター	江澤正志
1 月 14 日	和田地域福祉センターやすらぎ	中止
2 月 18 日	富山ふれあいコミュニティセンター	中止
3 月 11 日	白浜コミュニティセンター	中止

## 【事業評価】

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令や新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2回のみでの開設となった。緊急な相談やより専門的な相談を希望された方については、弁護士会や他の専門窓口の電話相談を案内した。

### ⑤応急援護資金交付事業(一部市補助) 事業費 200,000 円

火災、風水害等で被災された世帯に見舞金を交付し、被災者の当面の経済的負担を軽減し、少しでも早い日常生活が送れるよう支援を行った。

#### ★資金交付実績

交付内容	地区	発生月	見舞金額(円)
全焼	富山	1月	100,000
全焼	富山	3月	100,000
合計 2件			200,000

## 【事業評価】

今年度の応急援護資金の見舞金は、2件の火災であった。

なお、昨年からの台風被害による義援金(半壊以上の被害を受けた世帯への赤い羽根共同募金からの災害見舞金及び本会に寄せられた義援金に分配)交付受付は、令和3年3月をもって終了とした。

### ⑥ひとり親家庭支援事業 事業費:130,440 円

新たに民間アパート等に居住しようとするひとり親家庭等に対し、経済的負担軽減を図り自立した生活が送れるよう、入居支度金及び家賃の一部を補助する助成金を交付した。

※入居支度金 30,000 円 家賃助成金上限 10,000 円×12 か月 (年3回に分けて給付)

#### ★助成金交付実績

(単位:件)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年比較
交付世帯数	4	6	3	△3
新規交付世帯数(内)	4	2	1	△1

## 【事業評価】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で転居するひとり親世帯があまりなかったためか、本年度の新規交付世帯数は1世帯であった。該当となる世帯の情報は、市の担当課から連絡が来ることになっているので引き続き連携を図っていく。

利用者の利便性等を図るため、令和3年4月からの支給回数を児童扶養手当の回数と合わせて年3回から6回とするため要綱の見直しを行った。

## (3) 広報啓発事業

### ① 広報啓発

(1) 広報紙の発行 事業費:755,996 円

福祉情報の提供と地域福祉をよりご理解いただくため、広報紙「てんだあ」を3回発行した。

### ★発行部数

広報紙「てんだあ」	発行部数
51号発行(令和2年8月発行)	14,950部
52号発行(令和2年12月発行)	14,950部
53号発行(令和3年4月発行)	14,950部
年間発行部数	44,850部

### (2)ホームページの開設と更新 事業費:92,180円

ホームページには、社会福祉協議会の組織、事業等の紹介をはじめ、住民の方に必要な福祉情報を掲載した。

SNS(ツイッターやフェイスブック)を開設し、リアルタイムで本会の事業予定や福祉情報を提供した。

南房総市社会福祉協議会 ホームページアドレス

URL: <http://www.shakyo-minamiboso.or.jp/>

### 【事業評価】

広報紙「てんだあ」は、社協が日頃から取り組んでいる事業を紹介するだけでなく、コロナ禍において地域の方々の創意工夫のある「地域のつながりを大切に活動」取材し、市民の方々に広く社協活動を知ってもらえるように制作した。

ホームページ・ツイッター・フェイスブックのSNSでは、新型コロナウイルスの影響により収入が減少した世帯への特例貸付の情報など、緊急に支援が必要な方々へ向け情報を迅速に提供できるように努めた。また、このような福祉情報の他、地域の方々へ向けた児童生徒たちからの「コロナに負けるな！応援メッセージ」などの情報発信も行った。

### ②社会福祉大会 事業費:175,663円

地域住民の方々が一堂に会して、市の地域福祉について情報共有するとともに、多年にわたり社会福祉の発展に寄与された方々の功績を讃え表彰するため社会福祉大会を開催した。

開催日	令和2年11月28日(土) 午前10時～11時
場所	千倉保健センター
参加人数	被彰者24人 関係者及び職員20人 計44人

内 容	<p><b>第 15 回 南房総市社会福祉大会</b>  <b>大会テーマ</b>  「つながりを絶やさない、新たな生活様式でのささえあいの取り組みへ」</p> <p>○式典 福祉功労者の表彰等</p> <p>1. 千葉県社会福祉協議会長表彰の伝達  【民生委員・児童委員功労者】  ・菅沼恭子・平間栄江・早川敏男・本橋正仁・堀江ルミ子・鈴木健史・鈴木隆文  【優良地区社会福祉協議会】  ・丸地区社会福祉協議会</p> <p>2. 千葉県社会福祉協議会長感謝状の伝達(1名)  ・千倉 あすなろの会 会長 三幣祥子</p> <p>3. 千葉県共同募金会長感謝状の伝達(7地区)  ・富浦 豊岡区・富山 宮谷区・三芳 山下区  ・白浜 川下区・千倉 岡瀬田区・丸山 小戸区・和田 白渚区</p> <p>4. 南房総市社会福祉協議会長表彰  【地域福祉活動功労者(8名)】  ・吉田輝夫・羽山厚子・野村愛子・渡辺春治・岩井布子・青木宏子  ・黒川恭子・二之宮悦子  【地域福祉活動功労団体(5団体)】  ・びわっこランチサービス・びわダイニング・マリンシェフ  ・ランチサービスちくら・防犯パトロール隊 クーちゃん</p> <p>5. 南房総市社会福祉協議会長感謝状  団体(1団体)・KDDI 株式会社南関東総支社</p>
-----	---

**【事業評価】**

今年度の社会福祉大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、表彰のみの大会とした。実施にあたり、十分な対策をとり感染予防に努めた。中止という判断もあったが、大会を実施し功績のあった方々の表彰の機会を設け感謝の意を伝えられたことは、良かったと思われる。

**(4)福祉活動支援事業**

**①福祉教育の推進**

小・中学校、高校の児童生徒に幼いころから思いやりのある優しい心を育ててもらふことを目的に、福祉教育を推進する学校へ助成金を交付した。

★福祉教育推進助成金交付校 事業費：390,000 円

小学校名		中学校名		高校名
富浦小学校	富山小学校	富浦中学校	富山中学校	安房拓心 高校
三芳小学校	白浜小学校	三芳中学校	白浜中学校	
千倉小学校	嶺南小学校	千倉中学校	嶺南中学校	
6 校		6 校		1 校

**②子育て活動支援（市委託） 事業費：5,087,056 円**

子育て環境の充実支援のため、学童保育指導員の派遣を行った。

## 【事業評価】

福祉教育推進助成金は、昨年度は申し込まない学校もあったが、今年度は市内の全ての学校が申請し助成金を交付した。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され臨時休校となったことなどが影響し、実施予定であった内容を中止する学校がほとんどであった。そのような中でも様々な工夫をこらし、「校内や地域の美化活動」、「高齢者との交流を年賀状に変えた交流」、「施設訪問を特別支援学級との交流に代替える」など、学校行事に合わせた取り組みが報告された。

例年実施している福祉作文募集については、学校が臨時休校となり通常の授業が行えていない状況から、募集は見合わせることにした。

また、学童保育指導員の派遣は職員が定年退職となったことにより、令和 2 年度をもって終了する。

## 2 高齢者の在宅生活の支援

### (1)在宅福祉支援事業

#### ①ふれあいの居場所づくり支援事業（お達者サロン）（市補助） 事業費：267,180 円

参加される方が身近な場所で交流することで閉じこもりを予防し、利用者相互の交流を通して生きがいを見だし、元気に過ごしていただき介護予防の促進を図ることを目的として、ボランティアが運営するお達者サロンに助成金を交付した。

#### ★サロン開催状況

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
サロン開催状況	22ヶ所	26ヶ所	25ヶ所	△1
利用者参加者数(人)	7,604	7,259	769	△6,490
協力者数(人)	3,105	3,043	382	△2,661

#### ★助成金実績報告 5 団体・・・60,000 円

## 【事業評価】

高齢者が集うお達者サロンは、感染症のリスクを考慮し開催を中止する団体が多かったが、野外でのサロン(青空サロン)を開催した団体もあった。

サロン開催を中止したことで閉じこもりがちになり、骨折や認知症の進行がみられる高齢者も多かったため、サロンサポーター(ボランティア)が高齢者宅を訪問するなど新たな活動も行われた。訪問の際には、脳トレを兼ねた塗り絵や転倒予防の体操パンフレットなどを配布し、自宅でも楽しめる介護予防の取り組みも併せて行われた。



#### ②ふれあいランチサービス事業 事業費：2,651,269 円

毎月1回、ボランティア、地区社協、民生委員・児童委員等が手作り弁当を、単身高齢者(70歳以上)へ宅配し、地域の方々とのふれあいや健康・生活状況の安否確認等を行うことにより在宅生活を

支援した。

★地区別配食数 月平均配食数・・・466食(令和元年度 735食 比較 269食減)

地区名	延べ配食数	協力ボランティア	
富 浦	376食	調理 120人	月平均 10人
富 山	505食	配食 880人	月平均 73人
三 芳	453食		
白 浜	913食		
千 倉	2,240食		
丸 山	546食		
和 田	570食		
合 計	5,603食		

### 【事業評価】

今年度のふれあいランチサービス事業は、参加されるボランティアやお弁当を受けとる高齢者への感染症リスクを考慮し、基本的にボランティアが調理するお弁当の配布を中止とした。代わりに市販のお弁当、非常食、感染症対策のマスク又は啓発チラシなどを配布し、併せて民生委員・児童委員やボランティアの協力のもと安否確認も実施した。

また、7月～9月の間は、在宅の単身高齢者等の見守り強化を図るため、南房総市から地方創生臨時交付金を活用した事業として「新型コロナウイルス対応ふれあいランチサービス業務」として市内業者で購入したお弁当を届け、訪問活動を実施した。

その後、安房管内での感染拡大がみられたことから、訪問活動も行わず、電話での安否確認のみ実施した。なお、電話に出られなかったお宅には、民生委員・児童委員、ボランティア又は職員が訪問し安否確認を行った。

### ③紙おむつ給付事業

在宅で介護している家庭の負担を軽減するため、年4回紙おむつを無料給付し、在宅介護を支援した。

(1) 紙おむつ給付事業 事業費:2,635,680円

要介護3・4・5、重度障害者、療育手帳、精神障害者保健手帳を所持し、在宅で日常生活のほとんどに介護を必要とされる方を対象に、年4回1回あたり介護度3は2,500円相当、介護度4・5及び障害者は5,000円相当の紙おむつを支給した。

★給付実績

(単位:人数)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
身 障	141	154	176	22
要介護3	117	120	152	32
要介護4	140	145	165	20
要介護5	85	103	103	—
合 計	483	522	596	74

**【事業評価】**

令和元年度から、利用者が自ら希望する紙おむつを選び、市内の身近なお店で受け取りができるよう給付券方式に変更したことを受け、利用者にアンケート調査を実施した。アンケート結果では、給付券方式により、自分にあつた品目を幅広く選ぶことができ利便性の改善が図られたとする意見も多かったが、一方で、更に給付金額や給付品目を増やして欲しいという要望や、民生委員・児童委員との関わりを疑問に思う意見もあった。

限られた財源の中で、より多くの方々の在宅介護を支援する事業であることから、本事業の目的や財源等について丁寧に説明していくことが必要と思われる。

(2) 高齢者介護用品支給事業(市受託) 事業費:2,989,400 円

要介護4・5の高齢者で非課税世帯の方を対象に、年4回、1回あたり25,000円相当の紙おむつ代を助成した。

★給付実績

(3月末給付実人数)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
要介護4	27	30	27	△3
要介護5	18	17	12	△5
合 計	45	47	39	△8

**【事業評価】**

申請者は昨年度より8件減少している。本事業は市からの受託であるため、担当課である健康支援課と調整を図り実施した。高齢者介護用品支給事業が対象にならなかった方は昨年度と同様に、紙おむつ給付事業で支給できるよう申請の案内を行い、ご家族の介護負担軽減を図った。

**④交通空白地有償運送事業(ボランティア移送サービス)**

事業費: 収入総額:2,272,401円 支出総額 1,965,099円 当期残額:4,592,134円

会員制の移送サービスとして、高齢者・障害者等の移動困難者に対して、運転協力者(ボランティア)が通院や買い物等の送迎を行い、在宅生活を支援した。

(1) 会員登録数・・・238人

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
利用会員数	137	143	154	11
協力会員数	64	78	84	6

(2) ボランティア移送サービス利用実績・・・1,493件

(単位:人)

内 容	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
延べ利用者数	1,803	1,955	1,493	△462
延べ協力者数	404	443	388	△55

★サービス内容

(単位:件)

内 容	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
病 院	1,207	1,342	950	△392
公共機関	162	159	139	△20
買 い 物	402	420	382	△38
そ の 他	32	34	23	△11
合 計	1,803	1,955	1,494	△461

(3) 運転協力者講習会

移送の安全確保や、ボランティアの運転技術を維持するため講習会を開催した。

★講習会開催状況

開催月日	内 容	参加者数
9 月 17 日	移送サービス運転協力者講習会	3 人
10 月 1 日 2 日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	29 人
合 計		32 人

【事業評価】

利用者及び運転協力者の感染リスクを減らすため、利用者と利用者のご家族に対し「感染防止のための検温、消毒、マスク着用の徹底」「通院の回数を減らす」「ご家族の支援」などの協力を依頼したこともあり、前年度に比べて利用件数が減っている。ただし、通院等生命に関する必要な支援は、運転協力者のご理解と協力をいただき感染予防を徹底した上で行った。

新規の運転協力者講習を年2回予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、1回の講習会となった。ただし、運転協力者のフォローアップ講習は、千倉自動車教習所の協力もあり、予定通り実施することができた。課題であった、運転協力者の高齢化に伴う認知機能検査や運転実技講習を実施し、安全安心なサービスに努めた。

⑤生活援助サービス事業(みなみんおたすけサービス)

事業費:収入総額:17,000円 支出総額:13,700円 当期残額:116,050円

南房総市にお住まいの方々のささえあい活動を目的とした会員制の生活援助サービスで、高齢者・障害者等に対して、協力者(サポーター)が日常の家事を手伝い在宅生活を支援するサービスに取り組んだ。

(1) 会員登録数・・・ 14 人

(単位:人数)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
利用会員数	6	6	2	△4
協力会員数	13	13	12	△1



## (2) サービス実績

(単位: 件数)

内 容	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
話し相手	27	23	0	△23
衣類の洗濯	3	3	1	△2
住居の清掃	23	15	9	△6
買物代行	29	31	6	△25
食事の支度	3	5	0	△5
その他	16	8	0	△8
合 計	101	85	16	△69

## 【事業評価】

利用会員の施設入所と新型コロナウイルス感染症の影響によりサービス実績が減少した。この事業は拡充をしていく事業ではあるが利用が減っているため、第 53 号の広報紙「てんだあ」で事業を紹介し周知を図った。周知後、徐々に問い合わせが増え利用登録に繋がっていることから、今後とも継続して周知を図り、事業の推進を目指す。

## ⑥福祉車両・福祉機器貸出事業

(1) 福祉車両の貸出 事業費: 933,538 円

車椅子仕様車両を無料で貸出し、病院の送迎や外出等の在宅介護を支援した。

事故が発生しないよう、福祉車両整備に努めた。

※運転手は利用される方が手配しガソリン代は実費負担。

## ★年間貸出実績

(単位: 件数)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
福祉車両貸出件数	789	836	842	6
うち移送サービス件数	575	646	658	12

## (2) 福祉機器の貸出

車椅子を無料で貸出し、家族の介護負担を軽減することで在宅介護を支援した。

## ★年間貸出実績

(単位: 件数)

福祉機器名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
車椅子	111	80	53	△27
その他	1	2	0	△2
合 計	112	82	53	△29

## 【事業評価】

福祉車両の貸出は増、福祉機器、車椅子の貸出は大幅に減となった。

福祉車両の貸出は、安全なサービスの提供ができるよう福祉車両整備に努めた。

## ⑦日常生活自立支援事業(県社協受託) 事業費: 1,316,800 円

高齢者や障害のある方が住み慣れた地域でその人らしく安心して過ごすために、生活支援員が日常生活における財産の管理や福祉サービスの利用援助をサポートした。

## ★年間実績

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
新規相談数	5	8	16	8
新規契約数	5	5	2	△3
解約数	3	1	2	1
契約数(3月末)	11	13	13	0
現任支援員数	9	12	12	0

## 【事業評価】

新規相談件数は増加したが、契約に至った件数は少なかった。

本事業は財産管理を支援するという責任のある事業なので、通帳や資料などの管理、チェック体制を徹底し事業を実施した。また、生活支援員の意見交換会を実施し、記録の取り方など事務的な留意事項を再度確認するとともに、生活支援員同士及び専門員との情報交換を行うことで普段心掛けていることや不安に思うことなどについて情報共有を図った。

## ⑧生活困窮者自立支援事業(市受託) 事業費:14,763,771円

生活困難者の抱えている課題を分析し、そのニーズを把握、そして、個々のニーズに応じた自立支援計画を作成し、関係機関と連携調整を図りながら就労等各種支援を継続的に行い、自立に向け支援した。

## ★年間実績

(単位:件数)

自立相談支援事業	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
新規相談件数	55	58	143	85
プラン作成件数 (再プラン含む)	27	27	33	6
終結件数	9	8	10	2

(単位:件数)

	新規相談件数	プラン作成件数	継続支援件数
家計改善支援事業	14	10	12
就労準備支援事業	0	5	2

## 【事業評価】

本事業の新規相談が増えた要因は、新型コロナウイルス感染症関係の特例貸付が増加したことによる。相談については、生活困窮者自立支援事業の担当者だけではなく全職員で対応し、自立相談支援員と連携を図りながら生活再建に向けた支援に努めた。新型コロナウイルス感染症による経済的な影響は深刻な状況であり、相談者に寄り添いながら迅速かつ適切に対応し、必要により関係機関と連携しながら支援に努めた。

家計改善支援事業は、新規の相談件数も徐々に増えているが、就労準備支援事業は新規相談がないので、積極的にアウトリーチ(訪問活動)などを行い、潜在的な支援ニーズを把握していくこ

とが課題である。

今後、償還の対応が始まるが、自立相談支援員が対象となる世帯に積極的に関わりながら民生委員・児童委員や関係機関と相互の連携を図り、自立に向けた支援に努めていく。

コロナ禍において、社協の強みでもある専門性と地域ネットワーク機能との連携を発揮し、支援することができたのではないと思われる。

#### ⑨福祉機器リサイクル事業 事業費：33,170 円

各家庭で不要になった車椅子・歩行器等を受け入れ整備し、必要とする方に提供することで資源の有効活用を図った。

##### ★年間譲受・譲渡実績

(単位：件)

福祉機器名	平成 30 年度	令和元年度			令和 2 年度		
	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数
車椅子	11 (4 台廃棄)	6 (内センターから 2 台)	7	10	17 (内センターから 15 台)	3	24
歩行器 (シルバーカー)	3	3	2	4	4 (内センターから 1 台)	2	6
杖	12	0	3 (内処分 2 台)	9	3 (内センターから 3 台)	5	9

##### 【事業評価】

リサイクルボランティアによる福祉機器の修理を毎月 1 回実施する予定でいたが、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止した。その間は、各福祉サポートセンターに保管してある福祉機器の在庫整理などを行った。

課題となっていたボランティア増員については、目標を達成することはできなかった。引き続きボランティア募集の周知を図りながら、福祉機器貸出事業の拡充に向け取り組んでいく。



### 3 在宅生活を支援する資金の貸付

#### (1) 資金貸付事業

生活保護申請者等の低所得者世帯や高齢者世帯、障害者世帯に資金を貸し付け、民生委員・児童委員と連携し自立更正並びに生活の支援を行った。

#### ①福祉資金貸付事業(市社協) 事業費：100,012 円

(単位：円)

	件数	貸付額	償還額	償還未済額
令和 2 年度貸付	2	100,000	100,000	0
徴収不能金	0	0	0	0

	件数	貸付額	償還済額	償還免除額
償還免除	0	0	0	0

#### 【事業評価】

昨年度、貸付対象者に生活困難な支援世帯を加えて柔軟に対応ができるよう要綱の見直しを行ったことから、利用件数が増加した。

引き続き、利用者のニーズにあった制度として活用できるように、適宜見直しを図りながら実施する。

#### ②生活福祉資金・老障資金貸付事業(県社協) 事業費:1,520,400円

##### ★生活福祉資金貸付事業

通常の貸付相談件数・・・5件

(単位:円)

	件数	貸付額	備考
緊急小口資金	5	353,000	

特例貸付相談件数・・・141件

	件数	貸付額	備考
緊急小口資金	56	10,862,000	
総合支援資金	41	13,150,000	
延長貸付	8	3,900,000	
再貸付	8	4,500,000	

#### 【事業評価】

通常の生活福祉資金の貸付は、緊急小口資金の貸付のみで、主には生活保護費の利用まで又は生活困窮者自立相談支援事業の利用者が収入を得るまでのつなぎ資金としての活用であった。

特例貸付は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた40代から50代の飲食店、自営業の方々の利用が多くみられた。また、収入の見通しが立たない方は、延長貸付や再貸付を継続して利用されている。今後、生活困難な世帯に対しては、生活再建に向け生活困窮者自立支援制度で支援していく。

## 4 ボランティア活動の支援

### (1) ボランティア活動支援事業

事業費:1,861,046円

#### ①ボランティア連絡協議会の運営

ボランティア団体の活性化により、地域福祉の向上を図るため、ボランティア連絡協議会の運営を支援した。また、ボランティア保険加入受付事務を行い、ボランティアの方々が安心して活動できる体制を整えた。

市ボランティア連絡協議会では、ボランティア同士のつながりを保ち、新型コロナウイルス感染症の収束後に、



活動の輪が広がるよう、折り鶴アートの製作を始めた。ボランティアだけでなく、サロン利用者も自宅で楽しく折り鶴製作を行うなど活動が広がっている。

各分野のボランティア養成講座の開催は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら実施できる講座を開催した。



## ②ボランティア・市民センターの整備

ボランティア登録団体数・・・66 団体（団体・個人登録者 延べ 1,057 人）

ボランティアコーディネーターの配置 1 名

## ③ボランティア養成講座

ボランティア活動を始めたい方、またボランティア活動に関心を持つ方を対象に各種ボランティアの講座を開催した。

### ★ボランティア養成講座開催状況

講座名	開催日	内 容	参加者数
サマーボランティアスクール	中止	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止	—
給食ボランティア	中止	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により調理による弁当づくりを実施していないため中止	—
生活支援担い手養成講座・フォローアップ講座	中止	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止 ・代替え事業として、サロン等で使用できる介護予防体操普及のための貸出用DVDを購入	—
福祉体験	11月17日	・富山小 手話体験	71人
	11月27日	・富浦中 車椅子・手話体験	
災害ボランティア養成講座	—	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止	—
災害ボランティアセンター立上げ訓練	12月4日	・地域福祉班職員を中心に、三芳農村環境改善センターにおいての災害ボランティアセンター立上げのためのレイアウトを確認	6人
	3月20日	・職員を対象に運営訓練を実施 災害時の支援体制や初動体制の確認 机上での模擬訓練 各担当班の様式確認・準備	18人

#### ④ボランティア助成事業

ボランティアセンターに登録している団体の活動の活性化を図るため、団体の運営資金の一部を助成した。

##### ★助成金交付実績

件数	合計	ボランティア団体(グループ)助成金内容
48 団体	1,309,000 円	77,000 円 × 1 団体 = 77,000 円 (市ボラ連)
		40,000 円 × 4 団体 = 160,000 円
		30,000 円 × 26 団体 = 780,000 円
		28,000 円 × 1 団体 = 28,000 円
		20,000 円 × 9 団体 = 180,000 円
		19,000 円 × 1 団体 = 19,000 円
		18,000 円 × 1 団体 = 18,000 円
		17,000 円 × 1 団体 = 17,000 円
		10,000 円 × 1 団体 = 10,000 円
		9,000 円 × 2 団体 = 18,000 円
		2,000 円 × 1 団体 = 2,000 円

##### ★助成金交付内容(基本金額)

市ボランティア連絡協議会 80,000 円 ボランティア連絡協議会各支部 30,000 円

会員 10 名未満 20,000 円 10 名以上 30 名未満 30,000 円 30 名以上 40,000 円

※昨年度助成金未執行分は、減額助成

##### 【事業評価】

住民相互のささえあい活動の充実を図るため、今年度も様々なボランティア活動の支援と各種養成講座を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各講座は中止も含め予定通り実施することはできなかった。

そのような中、職員を中心に災害ボランティアセンター立上げ訓練を行い、マニュアルや様式の見直し等準備を進めた。また、災害ボランティアセンター運営で必要な資材の確保整備に努めた。

今年度は、ボランティア活動も自粛傾向にあり、ボランティアの活動への意欲低下も心配されている現状である。今後は、コロナ禍だからこそできるボランティア活動への支援に努めたい。

また、ボランティア活動助成については、活動を実施していない団体も多く、次年度は減額助成となる団体が多い。

## 5 共同募金運動の推進

### (1)共同募金事業

全国一斉に行われる共同募金運動は 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで実施され、区長を始め地域の方々のご協力をいただき活動が展開された。

#### ①赤い羽根共同募金運動

区の役員をはじめ地域の皆様のご協力により募金運動を実施した。

皆様から寄せられた募金は、社会福祉大会・結婚50周年・福祉機器リサイクル事業・災害ボランティアセンター運営資材整備事業・高齢者、障害者等の福祉車両の整備事業・福祉育成事業・ふれあい交流事業・広報紙の発行など地域福祉を推進するために活用した。

★募金実績

(単位:円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
戸別募金	6,304,102	5,948,420	5,604,424	△343,996
法人募金	3,000	3,000	3,000	0
学校募金	94,871	118,500	127,540	9,040
職域募金	15,455	22,307	22,987	680
イベント募金	0	0	800	800
個人募金	1,000	500	54,094	53,594
その他	106,761	78,329	77,721	△608
合計	6,525,189	6,171,056	5,890,566	△280,490

★赤い羽根募金箱ワークショップ 事業費:24,407円

赤い羽根募金運動の啓発を図るため、小学校1年から3年生の児童と保護者を対象に、親子で参加し募金箱を制作するワークショップを開催した。

昨年度までは募金箱コンクールとして開催していたが、今年度から共同募金運動や募金の使い道を児童や保護者に直接伝える機会を増やすことを目的に、参加型形式に変更し実施した。

開催月日・場所	内 容	参加者数
9月13日 丸山公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤い羽根共同募金について知ろう！ 募金やその使い道の説明</li> <li>・クイズにチャレンジ！</li> <li>・自分だけの募金箱をつくろう！</li> </ul>	10人



★みなみんふれあい映画上映会(中止) 代替え事業 絵本贈呈事業 事業費:277,147円

福祉育成を目的に、マスコットキャラクター「みなみん」とふれあいながら、小さなお子様や障害のある方々、またそのご家族で参加していただける映画の上映会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止とした。

そこで代替え事業として、絵本に親んでもらうことにより思いやりの心を育て、健やかな成長を願う健全育成を目的に、市内の保育園と幼稚園へ子ども達に向けた絵本を贈呈した。

★贈呈先

保育所			幼稚園	
富浦保育所	富山保育所	三芳保育所	富浦幼稚園	富山幼稚園
千倉保育所	嶺南保育所	白鳩保育園	三芳幼稚園	白浜幼稚園
認定こども園こどもの森	白浜東部保育園		千倉幼稚園	嶺南幼稚園
8園			6園	



★赤い羽根共同募金運動啓発事業(代替え事業)マスクセットの配布 事業費:641,740円

市内小学中学校の児童生徒へ、コロナ禍においても児童生徒が元気に感染に気を付けながら学校生活が遅れるようマスクセット(マスク・消毒・マスクケース)を赤い羽根共同募金運動の周知用チラシと一緒に贈呈した。

また、児童会・生徒会の協力をいただき、地域の方々へ向けた励ましの「コロナに負けるな！応援メッセージ」を募集した。

②歳末たすけあい運動

12月1日から31日まで行われる運動では、赤い羽根募金同様、多くの皆様のご協力をいただいた。寄せられた募金は、スローガンである「あったかいお正月」を地域で迎えられるよう、配分委員会を開催し配分方法を検討し、地域福祉事業に活用するとともに民生委員・児童委員を通じて市内の支援を必要としている方々や福祉施設へ配分した。



## ★募金実績

(単位:円)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
戸別募金	6,299,002	6,094,570	5,507,922	△586, 648
街頭募金	77,647	0	0	0
法人募金	20,000	20,000	10,000	△10,000
職域募金	0	0	3,500	3,500
イベント募金	0	3,006	0	△3,006
個人募金	20,500	20,500	45,000	24,500
その他	8,012	14	12	△2
合計	6,425,161	6,138,090	5,566,434	△571,656

## ★歳末たすけあい配分一覧

(単位:世帯)

分世帯(者)	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
生活困難な支援世帯	21	27	33	6
独居高齢者	222	215	192	△23
高齢者のみ世帯	30	20	18	△2
寝たきり高齢者	17	16	9	△7
寝たきり障害者	10	9	9	0
重度心身障害者(児)	136	124	127	3
母子家庭	54	37	33	△4
父子家庭	2	2	3	1
児童養護施設	1	1	1	0
特別養護老人ホーム	7	7	7	0
老人保健施設	3	3	3	0
知的(精神)障害者施設	3	3	3	0
グループホーム	6	6	6	0
小規模多機能施設	3	3	3	0
小規模特別養護老人ホーム	1	1	1	0
グループホーム(障害者施設)	7	6	7	1
合計	523	480	455	△25
	5,660,000 円	5,220,000 円	5,000,715 円	△219,285 円

## ③災害義援金募集 義援金総額 67,434 円

全国各地で災害により被災された方々を支援することを目的に、災害義援金を募集した。

#### ④災害見舞金

(単位:円)

	名 称	金 額
収入	前年度災害支援等寄付金残額の繰越金	394,812
	災害支援等寄付金	7,000
	合 計	401,812
支出	災害見舞金の助成 ※家屋の全壊・半壊世帯への見舞 (4月～3月まで 112世帯×3,000円)	336,000
	合 計	336,000

★災害活動等支援に係る経費・・・138,779円

#### 【事業評価】

共同募金運動の募金活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もある中、市民の皆様のご理解とご協力をいただき実施することができた。

特に、世帯募金が減少していく中で、学校募金が増額となった。児童会や生徒会で活発的に、募金運動が展開された。

また、各事業では新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予定通り実施できないことも多く、その場合には地域の皆様の福祉ニーズに反映できる取り組みを検討し、代替え事業として実施した。

そして例年実施している歳末たすけあい募金の見舞金は、民生委員・児童委員のご協力のもとお届けすることができた。

共同募金運動については、年々人口や世帯数が減少していく中でご協力いただく募金も減少している現状であるので、改めて共同募金運動の目的や趣旨など運動を盛り上げていくこと、また事業の見直しを図りながら進めて行くことが必要である。

昨年度から、被災された世帯のうち、罹災程度が半壊以上の世帯に対しては、赤い羽根共同募金の見舞金助成と併せて、本会から独自の見舞金を交付してきたが、災害復興が進んだ状況もあり、見舞金の交付は本年度をもって終了とした。



## 6 社会福祉協議会の活動基盤整備

事業を効果的に実施するため、民間組織として自主性・創造性を高めながら、ボランティアや福祉諸団体と連携・協働して活動の基盤整備に努めると共に、社会福祉法人としての公益性・公共性を維持しながら、運営の透明性の確保とコンプライアンスの強化に努めた。

### ①会員募集の状況

(単位:件)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
一般会員 (市内全世帯)	12,801	12,597	269	△12,328
賛助会員 (活動に賛同される個人など)	454	421	42	△379
特別・施設団体会員 (福祉施設・団体など)	140	80	29	△51

### ②基金積立額

(単位:円)

基金の種類	積立額
福祉振興基金	95,234,599
災害対策基金	8,844,984
ボランティア基金	1,534,128
合計	105,613,711

#### 【事業評価】

令和元年度の台風 15 号 19 号をはじめとした災害や新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る問題により住民の方の社会生活や経済活動に多大な影響を及ぼしている状況から、今年度に限って「会費」の取りまとめについては区長へ依頼しないこととしたため、加入状況は減少している。

新型コロナウイルス感染症の影響で活動を制限された部分もあるが、そのような状況であっても社協の設立目的である誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすことのできる「福祉のまちづくり」の実現を目指し、事業を実施した。

今年度、年々複雑かつ多様化する生活課題に対応するため、人事評価制度を試験的に導入し、「住民の視点に立ち、住民とともに考え、住民のために行動できる職員」の育成を目指した。次年度以降、早期に本格的導入を実現できるよう、引き続き制度の構築を図っていく。

これまでも理事会や評議員会などで社協の事業拠点や事務局体制について協議・検討してきたところであるが、引き続き限られた職員で効率的に・効果的な福祉サービスを提供できるよう、関係機関と連携しながら進めていくことが課題である。

### ③理事会・評議員会の実施状況

#### 理事会議案一覧 〈令和2年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番 号			件 名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	R2. 6. 4	書面決議	1	1			令和元年度事業報告並びに決算の承認について	承認
2				2			令和2年度補正予算（第1号）について	可決	
3				3			高齢者等外出支援サービス事業運営規則を廃止する規則の制定について	可決	
4				4			評議員選任・解任委員の選任について	可決	
5				5			評議員会の招集について	可決	
6				6		1	事業（職務）の執行状況について ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る取組みについて ・みよし福祉サポートセンターの移転について ・職員募集について	—	
7	2	R2. 7. 28	書面決議	1	6			評議員選任候補者の選任について	可決
8				2	7		評議員会の招集について	可決	
9				3	2	職務（業務）の執行状況について ・みよし福祉サポートセンターの移転について ・南房総市地区社会福祉協議会（地区社協）の統合について ・災害ボランティア活動の再開について	可決		
10	3	R2. 9. 18	理事 11名 監事 1名	1	8			社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について	可決
11				2	9			令和2年度補正予算（第2号）について	可決
12				3	10			定款の一部を改正する定款の制定について	可決
13				4	11			職員の再雇用に関する規則の制定について	可決
14				5	12			評議員会の招集について	可決
15				6		3	事業（職務）の執行状況について ・「職員に対する人材育成基本方針」の策定について ・ちくら介護予防センターゆらりの指定管理について ・職員採用について	—	
16				7			1	第15回南房総市社会福祉大会の開催について	—
17				8			2	第4回南房総市戦没者追悼式の開催について	—

18				1	13			専決処分承認を定めることについて ・職員の給与に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可決
19	4	R3. 1. 28	書面決議	2		4		事業（職務）の執行状況について ・令和2年度事業活動の執行状況について ・令和2年度南房総市社会福祉協議会月次決算等の状況（事業区分/拠点区分別合計残高試算表） ・職員採用について ・地区社会福祉協議会の統合について ・ちくら介護予防センター「ゆらり」の指定管理について ・災害ボランティア活動の終了について ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組みについて	—
20				1	14			専決処分承認を定めることについて ・令和2年度補正予算（第3号）について	可決
21				2	15			令和2年度補正予算（第4号）について	可決
22				3	16			役員等賠償責任保険契約締結について	可決
23				4	17			令和3年度事業計画について	可決
24				5	18			令和3年度予算について	可決
25	5	R3. 3. 23	理事11名 監事2名	6	19			評議員会の招集について	可決
26				7	20			事務局長の任免について	可決
27				8		5		事業（職務）の執行状況について (1) 令和3年度事務局組織体制について (2) ちくら介護予防センター「ゆらり」の指定管理について	—
28				9		6		令和2年度南房総市指導監査の結果について	—
29				10			3	(1) 社協の事業拠点の再編について (2) 理事（監事）の改選について	—

### 評議員会議案一覧 〈令和2年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番号			件名	審議結果
					議案	報告	その他		
1				1	1			令和元年度事業報告並びに決算の承認について	可決
2				2	2			令和2年度補正予算（第1号）について	可決
3	1	2. 6. 22	書面決議	3			1	事業（職務）の執行状況について ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る取組みについて ・みよし福祉サポートセンターの移転について ・職員募集について	—
4				1	3			理事の選任について	可決
5	2	2. 8. 25	書面決議	2			2	事業（職務）の執行状況について ・みよし福祉サポートセンターの移転について ・南房総市地区社会福祉協議会（地区社協）の統合について ・災害ボランティア活動の再開について	—

6	3	2.9.28	書面決議	1	4		令和2年度補正予算（第2号）について	可決
7				2	5		定款の一部を改正する定款の制定について	可決
8				3	3	3	事業（職務）の執行状況について ・「職員に対する人材育成基本方針」の策定について ・ちくら介護予防センターゆらりの指定管理について ・職員採用について	—
9						4	第15回南房総市社会福祉大会の開催について	—
10						5	第4回南房総市戦没者追悼式の開催について	—
11	4	3.3.30	評議員 15 理事 1 監事 0	1	6		専決処分の承認を求めることについて ・令和2年度補正予算（第3号）について	可決
12				2	7		令和2年度補正予算（第4号）について	可決
13				3	8		令和3年度事業計画について	可決
14				4	9		令和3年度予算について	可決
15				5		1	報告事項について (1)事務局長の任免について (2)令和3年度事務局組織体制について	—
16				6			1	(1)社協の事業拠点の再編について (2)評議員の改選について

### 評議員選任・解任委員会議案一覧 〈令和2年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番 号			件 名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	02.8.18	4	1	1			評議員選任・解任委員会委員長の選任について	可決
2				2			評議員の選任について	可決	

令和2年度事業報告には、社会福祉法第45条の27第2項に規定する附属明細書については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年5月

社会福祉法人南房総市社会福祉協議会



